

定例・横須賀市防災講演会 3月11日（金）

題目「がけ崩れや液状化がおこる仕組み」
午前10時～12時 総合福祉会館5階ホール
講師 正垣孝晴（防衛大学校准教授）
参加申し込み不用 無料 先着300名まで

協力：学区体育振興会

1万メートル フロムナード・ウォーク 3月19日

スタート 9:30
A ヴェルニー公園
B うみかぜ公園 11:30（最終通過時間）
C 走水水源地 13:00（最終通過時間）
D 横須賀美術館 13:30まで

◎参加料：1人300円（中学生以下200円）※保険料含む
◎開催可否の確認方法
・[前日の17時以降] 横須賀市体育協会ホームページ：<http://yokosuka-sports.jp/>
・[当日の7時以降] 横須賀市コールセンター：046(822)2500

主催：横須賀市体育協会 共催：横須賀市・横須賀市教育委員会
協力：横須賀市学区体育振興会 横須賀商工会議所 横須賀市観光協会 カレーの街よこすか事業者部会

第53回 アイクルフェア

振り返って、見直そう、身近なりサイクル！
フェアならではの楽しいイベント盛りだくさん！
同時開催：第三海堡通橋の特別見学会・動物愛護センター開放DAY
皆様のお越しを心からお待ちしております

《日時》平成28年3月21日（振替休日・月）10:00～15:00

★再生家具の有償提供（入札）★
受付期間：3月11日（金）～21日（振替休日・月）
＊アイクルの開館時間は8:30～17:00です。
＊フェア当日は13:00で締め切ります。
＊3月14日（月）は休館日のため、お申込みできません。

新規生徒さん 受付中！

気軽に《書道》始めてみませんか？

小学生～ご高齢の方まで初心者歓迎！

◎月謝＝小・中学生 3,000円 高校生以上 4,000円
◎稽古日＝毎週火・水・木・土曜日 10:00～20:00 ※詳細はお問合せ下さい。

Tel & Fax 046(897)5416 ✉ fudekoya@jcom.zaq.ne.jp
書道教室『筆子屋(ふでこや)』 坂本町2-11 阿部方（坂本隧道手前）

※同好会等の活動紹介とメンバー募集などにもこの欄をご利用下さい。（無料です）商業広告の記載も承ります
5cm×20cm 1000円（求人広告は無料です）
ご意見・広告・寄稿は（fax）827-8086（メール）csc_taka@yahoo.co.jp
お問合せ823-4181 編集責任者 斉藤隆親（連合町内会総務担当）

連合町内会の三大行事の日程が 下記の通り決まりました。

2月16日に行事部会を開催し、決定されました。

桜学区子ども相撲大会	5月21日（土）予備日22日（日）
大六天神社祭礼	8月13日（土）・14日（日）
連合盆踊り大会	8月20日（土）・21日（日）

＊各行事内容については、それぞれの実行委員会において検討していく予定です。



昨年の相撲大会チャンピオン達 祭礼・宵宮神輿 盆踊り
今年も皆様のご尽力、ご協力を頂いて 大いに盛り上がりましょう

＊坂本地域運営協議会発足1周年記念行事として 4月24日（日）に八重桜の美しい坂本公園にてイベント企画中です
乞う ご期待！！ 詳しくは4月号にてご案内

3月11日（金）	第68回 聖佳幼稚園	修了証書授与式	10時
3月14日（月）	第68回 坂本中学校	卒業証書授与式	10時
3月17日（木）	第17回 桜小学校	卒業式	10時

シリーズ 在宅療養・介護 そして看取りを考える ①

介護保険法の改正をうけて、横須賀市では新たな地域医療・地域介護環境作りへの取り組みを始めています。在宅療養と介護はその重点課題のひとつです。様々な取り組みについていざ、その時の為に悔いのない選択が出来ることを願って取り上げていきたいと思います。

在宅療養とは何でしょうか？

住み慣れた自宅に医師や看護師、ホームヘルパーなどに来てもらい、医療と介護を受けながら療養生活を送ること。それが在宅療養です。

私たちは元気でいる時は、病気のことや介護のことをあまり考えません。しかし、突然の病気やけがが原因で、あるいは年齢を重ねることによって、医療と介護が必要になってきます。治療やリハビリを受けて元の生活に戻ることができるならよいのですが、年齢が高くなるほど、もとおりの元気な姿を取り戻しにくくなっていきます。

外出もむずかしい状態であるならば、自宅にしながら医療と介護を受け、自分らしく生活できる在宅療養は、一つの選択肢です。

横須賀市では、市民のみなさんが安心して最期まで自宅での療養生活を送ることができるよう、医療と介護の関係者が連携して支援するための取り組みをしています。

在宅療養を始めるきっかけはこんなことが多いようです。

- ★ 病気やけがで入院し、手術や治療が終わって退院することになったけれど、入院前のように歩けなくなってしまいました。
- ★ がんなどの重篤な病気で、病院で治療を続けていましたが、治るための治療方法がないことがわかりました。それならば、苦痛を緩和してもらいながら、自宅で最期まで自分らしい生き方をしようと決めました。
- ★ 年齢とともに足腰が弱り、外へ出ることができなくなりました。かかりつけ医のところへも通うことができなくなりました。

このようなことは、誰にでも訪れる可能性があります。その時、あなたが、「家に帰りたい」「家にいたい」と望むなら、在宅療養は可能です。

- 3 -



「横須賀市在宅療養ガイド」より

お雛祭りの歴史

【禊（みそぎ）神事としての始まり】

日本には、古より田植えの始まりにあたる旧暦3月の初め（現在の桜の咲く頃）に、田の神様をお迎えするために、心身の穢れを祓う禊（みそぎ）の習慣がありました。形代（かたしろ）という、草や藁（わら）で作った人形（ひとがた）で身体をなでて息を吹きかけ、穢れを移し代わらせて、無病息災を祈りながら海や川に流していました。現在でも、水無月の大祓い（6月末日）・年越しの大祓い（大晦日）には、人形を用いた禊祓い（みそぎはらい）の神事をおこなうことがあります。

古代中国にも、季節の変わり目に湧く邪気（じゃき）を祓う、禊の風習がありました。

3月最初の巳（み）の日に、海辺や川辺で行われていた行事で「上巳の節句（じょうみのせつく）」といいました。これが日本に伝わり「上巳の祓い」「上巳の節句」という神事になりました。巳（み）→ 三 に通じることから、室町時代に3月3日に定まりました。

【身代わり人形から流し雛へ】

形代を用いての禊の習慣は“身代わり信仰”へと発展しました。赤子や幼子の枕元に、布や藁などで作った人形を置き、子に降りかかる災厄を代わりに受けてもらうというものです。布で作られた人形を天児（あまがつ）と呼び、藁に布を被せた人形を這子（ほうこ）といいました。この、天児を男子、這子を女子として一対の身代わり人形としました。これが、立ち雛（たちひな）の原型といわれています。現在も地方によっては、紙製の立ち雛に、穢れを移し代わらせ川に流す「流し雛」の風習が受け継がれています。

【“ひいな人形”から雛人形へ】

平安時代の貴族たちの雅やかな日常を綴った、紫式部の「源氏物語」や清少納言の「枕草子」には、貴族の子女が、紙や布などで作った“ひいな人形”で遊ぶ様子が描かれています。“ひいな”とは、雛のように小さいという意味です。人形に合わせた、ミニチュアの御殿や装飾家具なども作られ、ままごと遊びを楽しみながら、貴族の礼儀作法などを学んでもいたようです。

この、ひいな人形遊びの文化と、禊祓いの風習や身代わり信仰が結びつき、子供の健やかな成長を見守る“雛人形”が誕生しました。そして、上巳の節句には、雛人形を飾って子供の成長をお祝いする“お雛祭り”を催すようになりました。

* 当時は、内裏雛（だいらひな）だけでした *

【雛人形の変遷】

室町時代以降、人形作りの技術が進歩したことで、美しい装飾雛人形が作られるようになりました。江戸・寛永6年には、京都御所で盛大なお雛祭りが催され、同じ頃、江戸幕府は「5節句の式日の制」により、3月3日を女子の誕生と成長を祝う「桃の節句」と定めました。この頃から、平安貴族の優美な衣装を身につけた有職雛（ゆうそくひな）や古今雛（こきんひな）が主流になりました。

また、嫁入り道具の1つとして豪華な雛人形を持たせるようになり、婚礼の様子や蒔絵をほどこした婚礼家具などが好まれるようになりました。

江戸中期頃には、女兒が生まれると雛人形を用意して、その子の形代として飾り「災いなく健やかに育ちますように。美しく成長し、良縁に恵まれて幸せになりますように。」という願いを込めて祝う初節句の風習が広まりました。当初は、内裏雛だけであったものが、添え人形（三人官女や五人囃子など）も加わるようになり、二段・三段・五段・七段と豪華な雛壇が飾られるようになり、幕府が贅沢を制限する禁令を出すほど豪華絢爛になりました。五段目の橘と桜は、かつての平安京の内裏（現・京都御所）に在る【左近の桜・右近の橘】を模しています。

大六天神社

秋本塗装

代表 秋本利晴
携帯 080-5465-9324

地元業者ならではの「信頼を大切に！」をモットーに頑張っております。
塗装・リフォームのことならおまかせ下さい。お気軽に無料見積もり
お申し付け下さい。

横須賀市坂本町 6 丁目 30 番地 TEL **046-801-1250**

家族葬ホール / 保冷安置室完備

(有) 横須賀博善社

坂本中央プリエールホール

坂本町 6-16 （中央斎場入口）

24時間受付フリーダイヤル 0120-60-2089

TEL 822-2089 FAX 822-2625

<http://www.yokosukahakuzensha.jp/>

